

研究通信

No. 50

1965. 1刊
村落社会研究会
事務局

甲府市武田四丁目
山梨大学農学部
社会学研究室内

村研拡大委員会報告

去る十一月三十日慶応義塾大学において拡大委員会を開きました。

当日の出席者は、有賀喜左衛門、喜多野清一、小池基之、福武直、中野卓、柿崎京一、米地実、大淵英雄、服部治則。

議題は村落社会研究会年報の件、編集委員会のもち方の件、来年度大会共通課題の件などであり、次の如く決定した。

(A) 年報について

一、年報表題、メインタイトルとして『村落社会研究』第〇号とし、サブタイトルは特集のある

場合、執書房と相談の上決める。

二、内容と体裁

1. 内容

- (1) 論文（特集論文、自由論文）
- (2) 研究ノート（問題作の批判論評を含む）
- (3) 資料
- (4) 研究動向
- (5) 大会共同討議録

右のうち(2)(3)(5)は号によつて欠く場合もある。

2. 学界の研究成果を高い水準で示す。

3. 外国に関するものも載せる。

4. 論文一篇の枚数は五〇乃至一〇〇枚。資料をどの程度入れるかによつて異なる。

5. 大きな論文の場合、『研究叢書』として出すことを村研の事業として考える。『研究叢書』は年報の他に、継続的に刊行される形を会で決める。

三、編集委員会

1. 委員構成

- (1) 全体の動向のわかる委員会を設ける。
- (2) 委員は専攻別地域別を考慮して、大会において選出する。

(但、本年度は在京拡大委員会が暫定的にその衝に当る)

2. 委員会の権限

- (1) 原稿を依頼し、提出された論文の取捨選択を行う。
- (2) 書き直し箇所を執筆者に指摘することができる。

3. 編集事務

- (1) 右の編集委員のうち東京在住のものを実行委員とする。
- (2) 実行委員長は実行委員を指揮して編集の事務に当る。

- (3) 実行委員長が編集委員長となるようにする。

- (4) 実行委員長の所属校を編集事務の当番校とする。

(但、本年度は実行委員長を小池基之氏にお願いし、当番校を慶応義塾大学とする)

(B) 『村落社会研究』第一号の編集について

第一号の編集については、暫定的に(四十年)度大会において編集委員会が正式に成立するまで)在京拡大委員会がその衝に当り、編集委員長を小池基之氏に委嘱し、慶応義塾大学において編集事務を執つていただくことにした。

本日開かれた委員会において次のように決定した。

1. 執筆者

- (1) 論文執筆者 安原茂、黒崎八洲次郎、布施鉄治、岩本由輝、川口諦、福武直。

(2) 資料執筆者 原宏

(3) 研究動向執筆者 矢木明夫、安孫子麟
神谷力、高橋明喜、竹内利美

2. 原稿不切 三月末日

3. 出版予定 九月

(c) 四十年度大会共通課題について

アンケートによつて会員の意向を求め、その
上で決定することにした。

(以上昭和三十九年十一月三十日議事)

※ 『村落社会研究』 第一号執筆について

右の十一月三十日の拡大委員会の決定に基づき、執
筆者に依頼状を出し、承諾を得た。執筆者及び題名
は次のとおりである。

1. 論文

安原 茂 「『都市化』過程と農家・農村」
黒崎八洲次郎 「大正期における農家の経営と

部落について

——北海道虻田郡留寿都村大西家文
書を中心に——

岩本由輝 「『むら』の解体

——商品流通の進展と村落共同体——

布施鉄治 「現代における『むら』の存在形

態と農民の対応形態

——その一類型の事例研究——

川口 謙 「鹿児島島の農村社会」

福武 直 「インドの農村」

2. 資料

原 宏 「明治期一村落的協議録

——北九州速賀の区有文書から——

3. 研究動向

史学・経済史学 東北 大 矢木 明夫

経済学 東北 大 安孫子 麟

法社会学 愛知学芸大 神谷 力

社会学 東京農工大 高橋 明善

民俗学 東北 大 竹内 利美

※ 昭和四十年度共通題目アンケート

右の拡大委員会で、昭和四十年度大会の共通題目をアンケートにより会員の意向を求めて、も一度委員会で討議することになりましたので、各会員より御意見を御送り戴き度いと思えます。二月上旬に委員会が開かれる予定です。